

5月28日(日) ショートメッセージ

聖書 使徒言行録 2章 1節～13節 (新約 214頁)

メッセージ 「聖霊がくだる」

すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。
(使徒言行録 2章4節)

(1) キリスト教会では、一年の暦の中で三つの日をとっても大切にしてきました。クリスマス、イースター、そして本日迎えたペンテコステ、聖霊降臨日です。本日は、イエス様の弟子たちに聖霊がくだったことを記念する日です。

(2) ユダヤの祭、五旬祭の日が来ました。復活したイエス様との別れを経験した使徒たちは、一同と共にエルサレムのある家に集まっていました。すると、そこに神さまからの力である聖霊がくだりました。

「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。」(2～4節)

なかなか想像しがたいとても不思議な光景です。また、この出来事は、何の予兆もなく突然起こったことから、人間の力を越えた出来事である事を感じさせます。しかし、この出来事には力がみなぎっています。

日常を打ち破るように起こったこの出来事によって、そこにいた人たちは、聖霊によって心もからだもいっばいに満たされました。すると、一同は聖霊が語らせるままに、それぞれが別の言葉、バラバラの言葉を語り始めました。

大きな物音を聞いて、その場に人々が集まってきました。祭のために様々な場所からエルサレムへ集まってきた人たちでし

た。9～11節にそれぞれの場所が記されています。そして、聖霊に満たされた一同が語り始めた言葉を聞き、ビックリしました。ここで話している人たちはガリラヤ地方の者なのに、集まってきた人たちのそれぞれの故郷の言葉が話されているではありませんか。

この想像を超えた出来事に人々は戸惑いました。「いったいこれはどういうことなのか」とお互いに言い合う者がいました。中には、無理矢理自分を納得させようとして、この人たちは新しいぶどう酒に酔っているのだとあざける者もいました。

(3) イエス様の弟子たちに聖霊がくだり、一同が神さまからの力でいっばいに満たされた時、イエス様の復活の証人としての務めを果たすために必要な力、言葉の障壁を乗り越える力がそこに示されました。その力は主の復活の証人たちを変革します。証言を伝えられる側ではなく、伝える側に変革をもたらす力、それがこのペンテコステの出来事で示された聖霊の力です。

その力によって、人と人とを隔てる障壁が破られ、主イエス・キリストが人々に伝えられ、主の復活が伝えられ、神の救いの希望が人々に伝えられるのです。

『讚美歌21』342番によって「神の霊よ、今くだり、愛に歩ませたまえ」と賛美する私たちに、聖霊がくだり、神さまからの力に満たされて歩むことが出来ますようお祈りいたします。

(多田玲一牧師)